

# 狐の

# 嫁取

東野 海  
Umi Touno

BBC DELUXE  
ヒーローイコミックス テラックス







狐の嫁取り

もくじ

狐の嫁取り

あわてんぼう母 マツ ヒノエさん

あわてんぼう母 マツ ヒノエさん 温泉編

あとがき

3

173

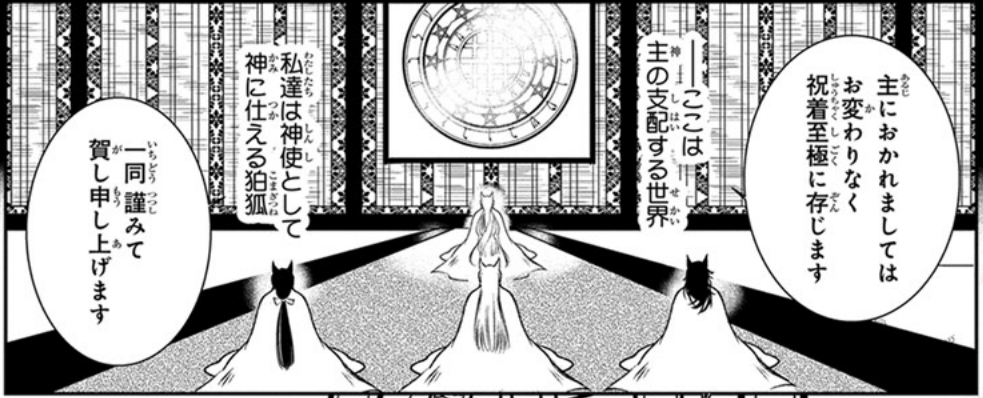
186

200



第一話

# 狐の嫁取り



主におかれましては  
お変わりなく  
祝着至極に存じます

「ここは  
神の支配する世界」

私達は神使として  
神に仕える狐

一同謹みて  
賀し申し上げます



四狐衆よ  
大義であった



御意

私は  
主を守護する  
狐一族の長  
八尾の狐



ときに  
ヒノエよ



そなたには  
今年こそ  
九尾となることを  
願っておるぞ



私たち狢狐は  
どの神使よりも  
主に忠誠を尽くす一族

そなた達は  
善の九尾となり  
余の片腕として  
世を守って  
もらいたい

外つ国には  
強力な  
九尾がおる

しかし奴は  
妖狐として  
悪の限りを  
尽くしている



ヒノエを  
目指し

他の者も励め

御意



九尾となることで  
主のお役に  
立てるのであれば、  
何を迷うことが  
あるだろう

狢狐の尾は  
同族の力を  
己に  
取り込むことで  
増える

しかし  
最も強い  
九尾となるためには

同族の狢狐のうち  
最も愛する存在を  
喰らわねば  
ならぬのだ

それが  
狢狐の理



そうだな

結界を越えれば  
お屋敷まで  
すぐですね



ヒノエ様！  
今年の主からの  
祝いの品  
すごい量ですね

皆  
大喜びですよ



こうしん、  
おまえ  
ヒノエ様に対して  
その言葉遣いは  
何だっ！



何より主からの  
ヒノエ様への  
お言葉！

俺も  
ヒノエ様みたいに  
なりたいです！

こまぎつね さと  
狐狼の里



良い  
気にするな

主からの  
祝いの品だ  
皆喜ぶで  
あろうな

ヒエ羅  
おみやげ  
をくうぬ

皆  
我らの  
帰りを待ち望んで  
いるだろう

まそ  
るを

お気をつけて  
緋乃衣様

サラは  
あなた様がご無事に  
帰還されることが  
なにより土産です

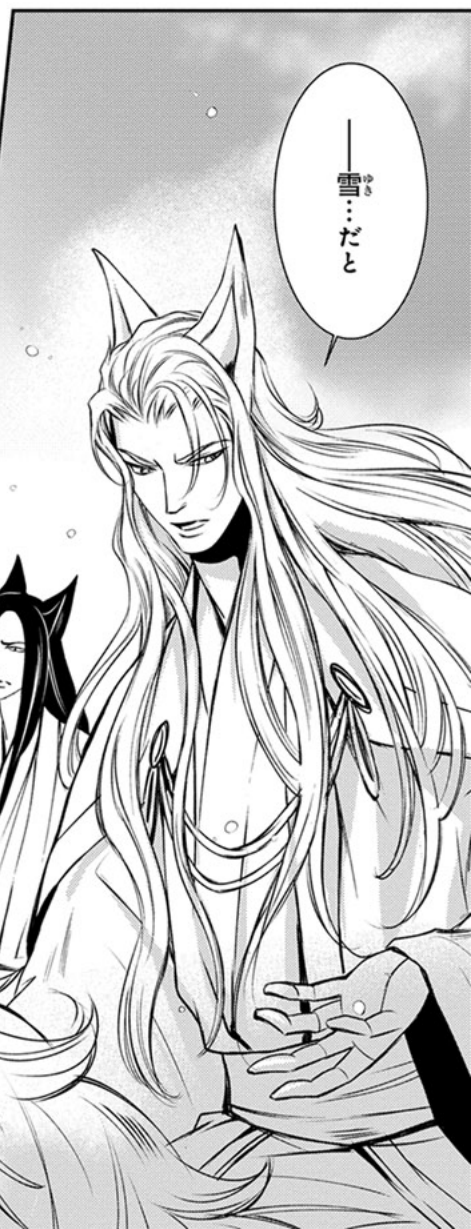
沙羅...  
私の愛しい妻

沙羅は  
私が九尾と  
なるために  
健気にも  
その身を捧げると  
言ってきたくない

しかし  
唯一生涯  
愛しめくと  
誓った番

狐の性に  
背くこと  
なること

愛する者を  
喰らわずして  
九尾となる方法を  
探し出してやる





里が燃えている!!

嘘だ!! さつきまで何も変わりなかったのに...っ

八尾のヒノエ様の結界を破れる者は主以外いない

…八尾を上回る力を持つ者は—

…まさか九尾!?

落ち着け!



ヒノエ様  
お一人では  
危険です  
我らも共に！

私は  
元凶を  
つきとめる！

おまえ達は  
生存者を探し  
安全な場所に  
運ぶのだった



大丈夫だ  
当主である  
私が先陣を  
切らずして  
どうする

そのような  
ことをしたら  
沙羅に笑われる



生存者の救出は  
後続の者に  
任せる  
我らは常に  
ヒノエ様と  
共に！  
行くぞっ

はっ！

…沙羅  
必ず助けるから

待っていて  
くれ



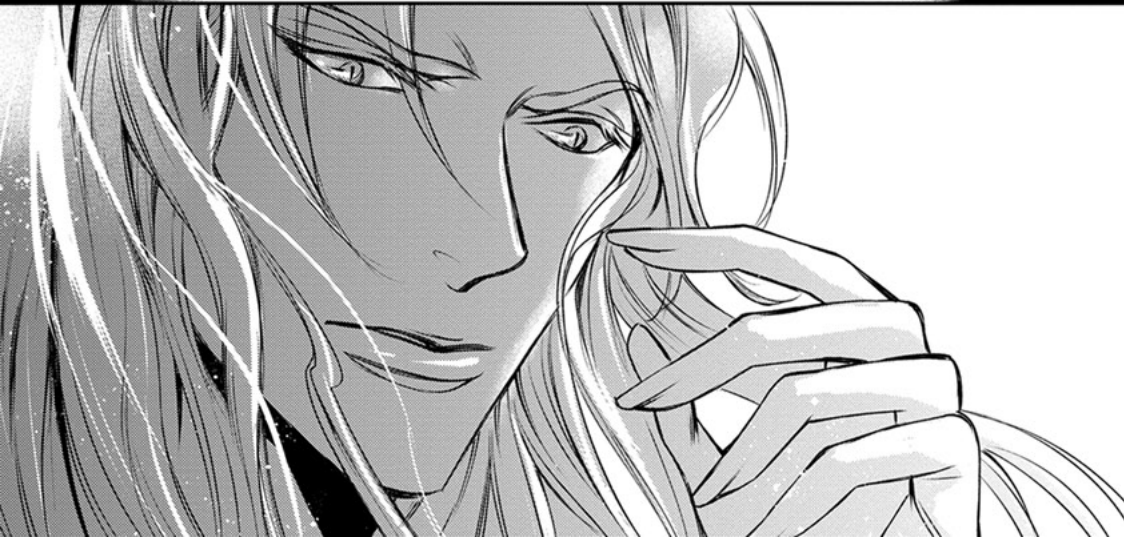
くっ

!?



先程から  
この風…

そして  
この炎も…  
何かおかしい





刀傷

!!



誰か  
居ないか!

燃えてる  
……  
仲間が……  
屋敷が……



大丈夫かっ



…ヒノエ様



…お母…

!?



治<sup>いま</sup>してやるからな!

キエッ



…

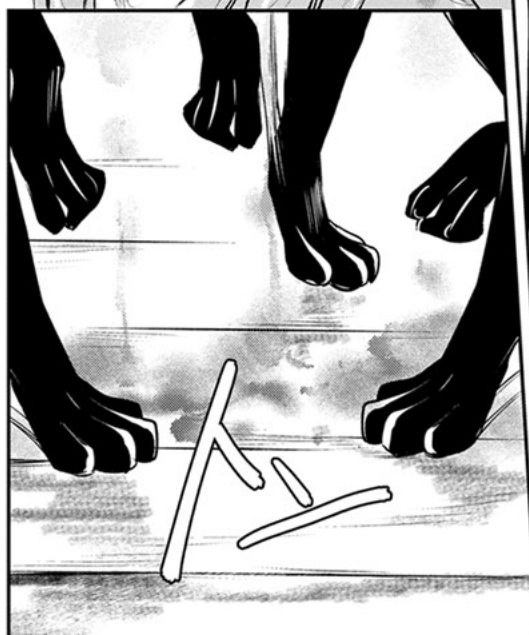
なぜ…!!



…い…  
…たいよ…  
…たす…けて

ドッ

PA-







なんだこの  
生き物は...!!  
こいつらが里を!?

キサマ...!!  
私の大切な  
者たちを!!

遅かったな  
待ちわびていたぞ

おまえが  
この狢狐一族の  
当主、八尾のヒノエか

優れた  
一族と  
聞いていたが  
他愛もない

九尾…!?





すべて  
貴様の仕業かつ!!



貴様は  
外道に堕ちた  
外つ国の妖狐

九尾だな...!



その通り  
名乗る手間が  
省けた

犬どもが  
少々遊びすぎて  
尾を食いちぎって  
しまつてな

褒美をやるう

このまま  
餌にしよう  
と思ったが  
おまえに  
返してやろう

!?



この女狐<sup>めぎつね</sup>  
おまえの妻<sup>つま</sup>  
だろう

死<sup>し</sup>に際<sup>ぎわ</sup>に  
わめいていただ



沙羅<sup>サラ</sup>っ！

…沙羅<sup>サラ</sup>…



おまえの番<sup>ばん</sup>だ  
ちようどいい  
喰<sup>く</sup>えば九尾<sup>きゅうび</sup>に  
なれる

—そら喰<sup>く</sup>え

だが既<sup>すで</sup>に死<sup>し</sup>体<sup>たい</sup>だ  
九尾<sup>きゅうび</sup>ではな  
妖狐<sup>ようこ</sup>になるかも  
しれぬがな

黙<sup>だま</sup>れっ！



番とは  
生涯添い遂げる  
ものだ！



私には  
妻喰いなど  
しない！

グッ



は？  
甘すぎて  
笑えてくる

おまえ  
それでも  
狐か！



それでは  
この女も  
浮かばれぬぞ



我が一族と  
妻への仕打ち  
その命をもって  
償え…!!

…許さぬ



…やったか…



…

グッ





うるさいっ！  
はな  
離せ！

それは出来ぬ



八尾よ  
おまえの身体は  
意思とは別に  
番を喰うことを  
望んでいる

それを  
拒むから  
力が弱って  
いるんだ

！

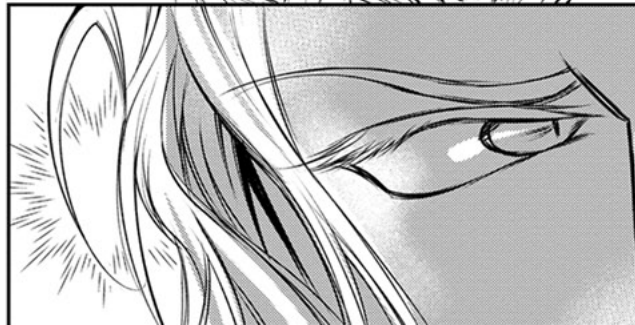


何を  
戯言を…っ

狢狐は  
番った相手しか  
喰らえぬのだぞ



俺は今から  
おまえを  
喰らうんだ



愚かな八尾よ  
それは狢狐一族の  
くだらぬ掟  
妖狐には通じぬ



尾が多いほど  
肉が美味いと  
聞いてな

わざわざ  
海を越えて  
こんな島国に  
足を運んだんだ

私を  
喰らうために  
この里に来たと  
—!?

俺の次に  
多い尾を持つ者を  
初めて見た

逃がしはせぬ

…  
そのような  
理由で…

私の  
大切な者達は  
命を奪われたと  
言うのか…

